

経営比較分析表（平成28年度決算）

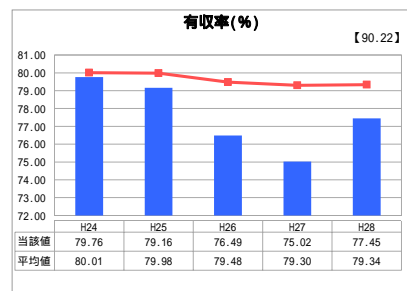
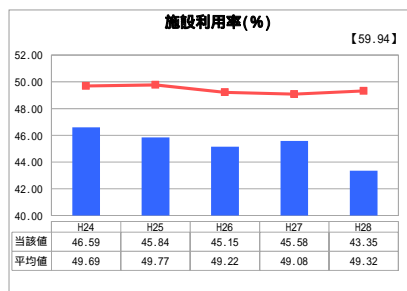
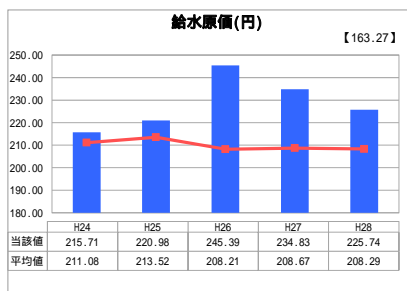
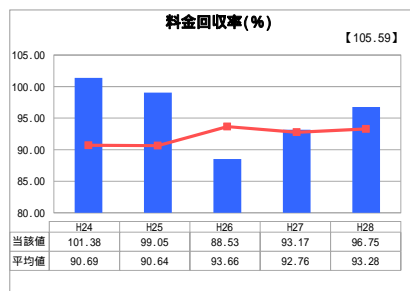
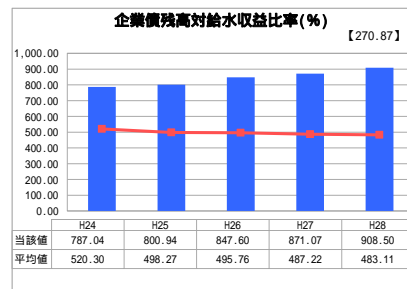
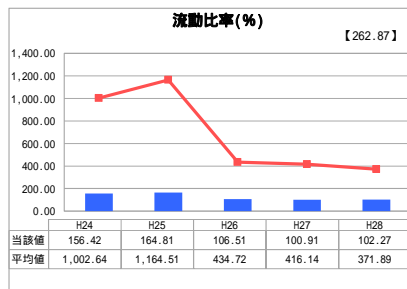
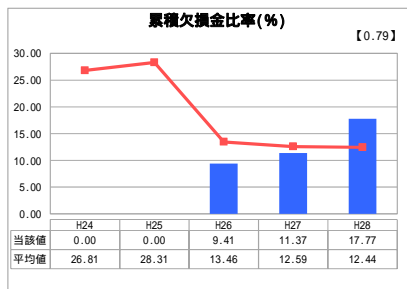
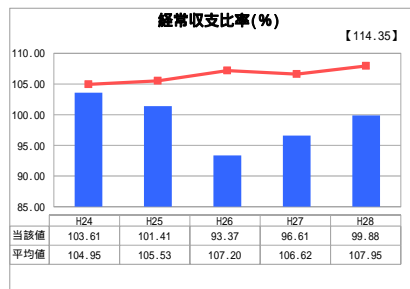
東京都 八丈町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	自治体職員 民間企業出身
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	56.45	99.55	3,164	

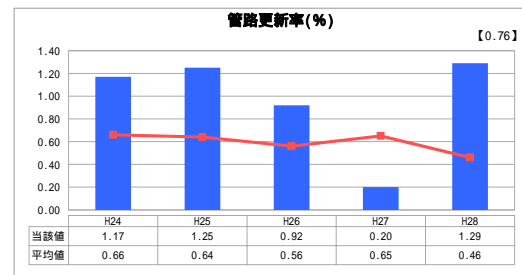
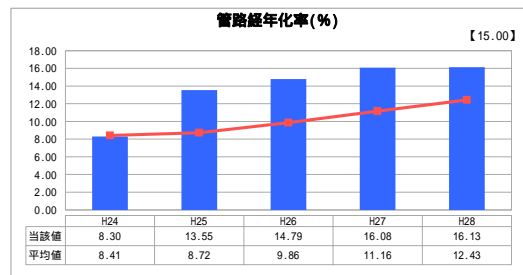
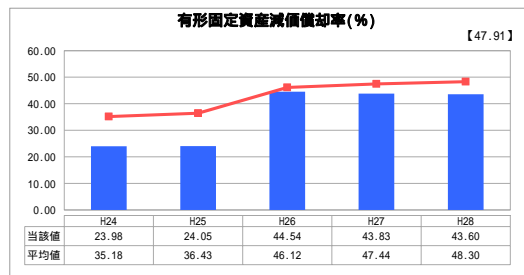
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
7,706	72.23	106.69
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
7,456	24.20	308.10

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
【】 平成28年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

給水収益で費用が賄われていないため、経常収支比率及び料金回収率が100%を下回っている。その結果累積欠損が発生し、短期的な債務に対する支払能力を表す流動比率は低い値となっている。

費用について、水道施設機器等の更新を順次行うことで動力費等の費用を減少させることができ、給水原価は減少しつつあるが、依然平均値より高い値となっている。今後さらに維持管理費削減に努める必要がある。

また、水道施設機器や管路を更新する際の財源の多くを企業債で賄っているため、企業債残高対給水収益比率が高い値となっている。投資規模を見直し、補助事業を積極的に利用することで当該比率を減少させる必要がある。

施設利用率については、人口減少等による使用水量の減少に伴い、低い値となっている。観光客の来島などにより夏場に増加する水を想定したうえで、適切な施設規模への統廃合を検討する必要がある。

2. 老朽化の状況について

管路更新率は平均より高く、積極的に管路更新をすすめているが、管路延長が大きいため、更新が追いついておらず、管路経年化率は高い値となっている。平成29年度に策定予定のアセットマネジメントをもとに、今後も国・都の補助事業を活用し、老朽管更新を進める。

全体総括

老朽化した管路・機器等の更新により投資規模が高くなりつつある中、人口減少等により給水収益は減少している。今後は、投資規模を見直し経費削減に努めるとともに、早急に料金の見直しを検討する必要がある。

平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。